

## 環境科学科2・3年生が 希少植物を演習林に挿し木



希少植物の枝をポットに植える生徒  
＝高山市山田町、飛騨高山高校山田  
キャンパス

飛騨高山高校環境科学科の2、3年生が14日、高山市内に生息する希少植物を挿し木をして育てる作業に取り組み、環境保全への理解を深めた。

挿し木した植物は、保護のため名前は非公表としているが、県のレッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類にも認定されている落葉低木。バイパス整備計画の影響で、4年前に高山西ICのビオトープ内に移植された。

作業は同市山田町の同校山田キャンパスで行った。生徒35人ほどが参加し、幹の切り口と枝葉の数を丁寧に調整した枝を、ポットの中の土に植え付けていった。今後、根付いて苗木として育つよう水やりなど世話をするともに、成長経過を観察する。将来は道路事業地に戻し、再生に取り組む予定。

2年生の高原悠太さん(17)は「成功率が低い挿し木と聞いたので、植える深さや土の配分を工夫した。とにかく成長してほしい」と話した。(市原萌子)

### 希少種挿し木で育て

#### 飛騨高山高生が保全活動